

産業別動向

1 農業

江別市は大都市近郊という立地を生かした都市型農業の推進を進め、今までの農業生産のあり方を見直し、小規模面積で収益性の高い集約型農業の推進や、江別産ブランドの確立に努めてきました。また、グリーンツーリズムの推進を通じ、都市と農村の交流に努めてきています。

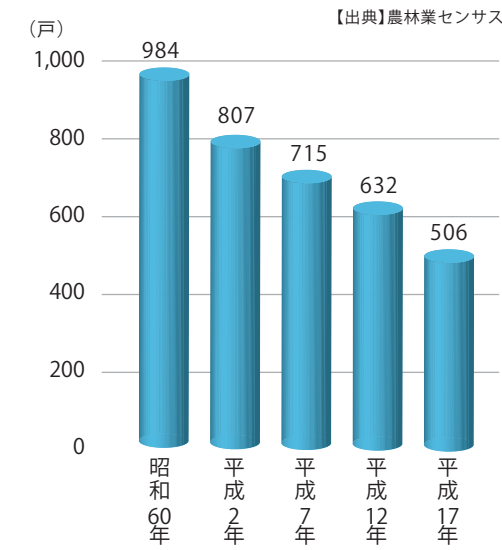
農業経営の現状を見てみると、江別市における昭和60年(1985年)から平成17年(2005年)にかけての20年間の農家数と農業従事者数の推移では、農家数は一貫して減少傾向にあり、984戸から506戸へと約5割の減少となりました。農業従事者数においても同様の傾向がみられ、2,701人から1,420人へとほぼ半減しています。

農業産出額においては、昭和60年(1985年)は約91億9千6百万円であったものが、平成17年(2005年)には60億8千万円となっており、20年間で3分の2程度までに減少しています。

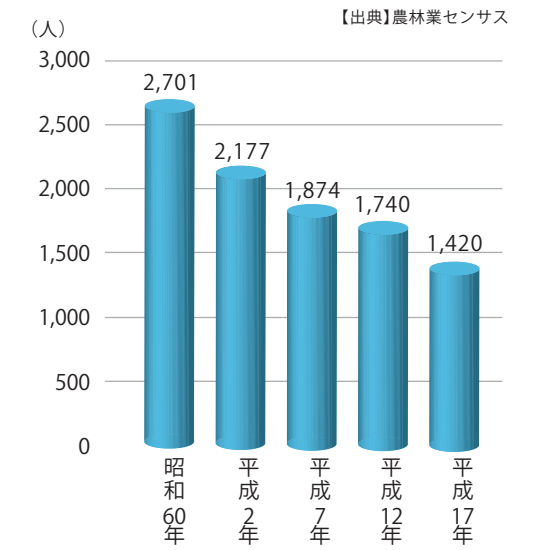
一方、江別市における平成18年(2006年)の作付面積をみると、牧草が2,070haで最も広く、小麦が1,940ha、水稻が1,140haと続き、この三品目で全体の8割を占めています。

近年の作付け推移でみると、平成14年(2002年)には作付け総面積が6,501haであったものが、平成18年度(2006年度)には6,402haと、約100ha減少がみられましたが、小麦の作付けが150ha増加するなど、付加価値の高い「ハルユタカ」の産地として供給体制の充実が進みました。

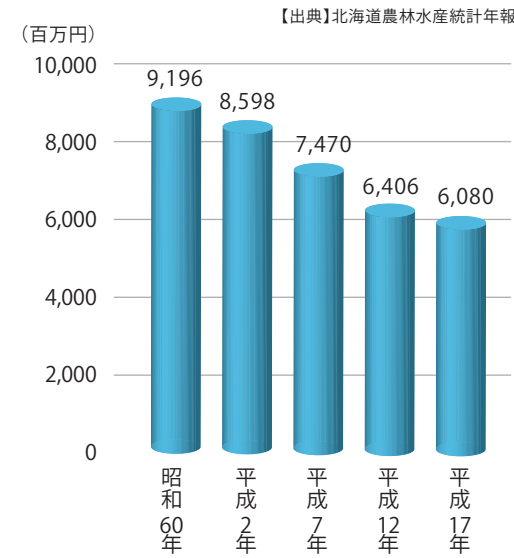
農家数



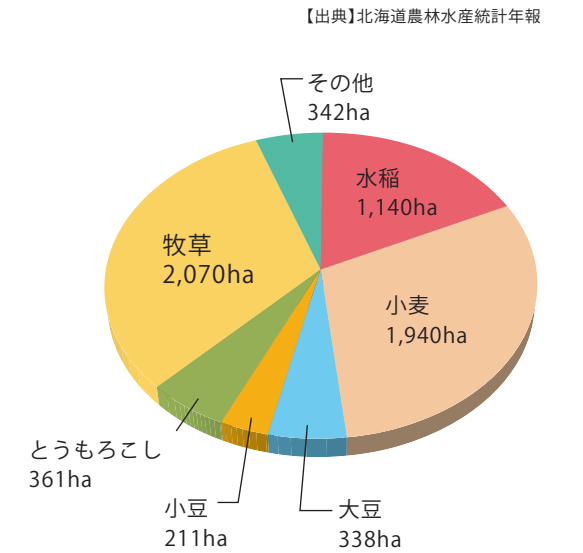
農業従事者数



農業産出額



作付け面積(平成18年)



2 商業

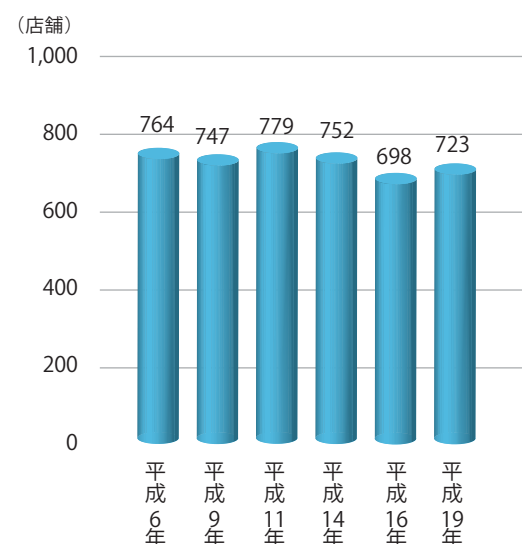
江別市では、地元に着目した商店街の売上を増加させるため、市民が楽しく買物できるような個性的で魅力ある商店街づくりを進めてきました。

例えば店舗改善により経営基盤を強化し、品揃えを魅力的なものとすることや、北海鳴子まつりや江別市民まつりなどのイベント開催を通じて、にぎわいの創出に努めるとともに、空き店舗を学生運営のために提供し、地域住民と学生との交流を通じ、商店街の活性化を図りました。

近年の商業動向を見ても、卸売業と小売業を合計した商店数は概ね横ばいの傾向にあります。また商業従業者数は、平成6年(1994年)から増加傾向がみられたものの近年はやや減少から横ばい傾向にあり、年間商品販売額は、平成9年(1997年)の約2,200億円をピークにして、平成11年(1999年)以降は急激な落ち込みがみられます。これは、全道的な傾向であり、人口の伸びがない低成長時代に入ったことなどによる影響と考えられます。

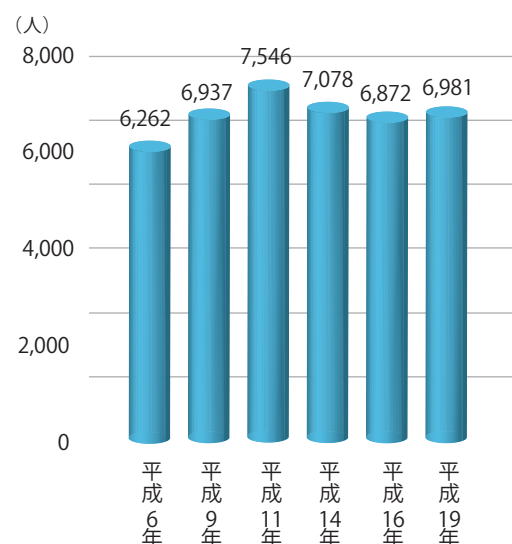
商店数

【出典】商業統計



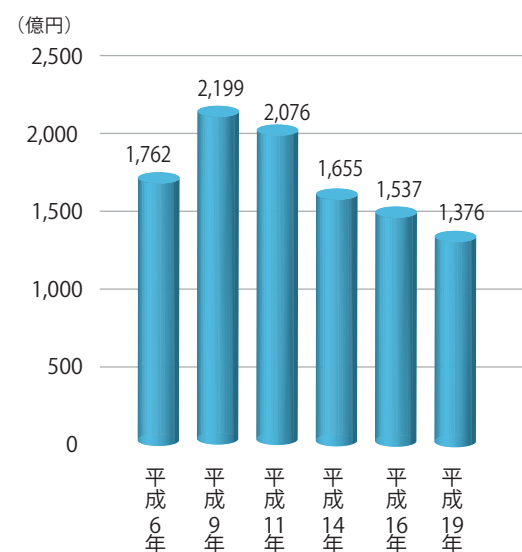
商業従業者数

【出典】商業統計



年間商品販売額

【出典】商業統計



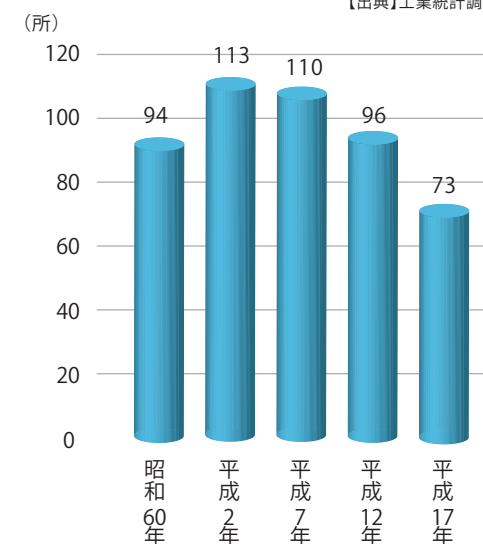
3 工業

江別市を発展させ魅力的な街とするために、産学官の技術協力による新製品開発と、競争力の向上に努めてきました。また、江別市の特性や地理的優位性などの立地環境を生かした企業進出の支援等に取り組んだ結果、毎年工業団地等へ新規立地がなされています。

江別市における工業事業所数をみると、平成2年(1990年)の113事業所をピークに減少傾向にあります。また従業者数は、平成7年(1995年)の4,337人をピークに減少傾向にあり、製造品出荷額等は、平成2年(1990年)の1,175億円をピークに減少傾向を示しています。

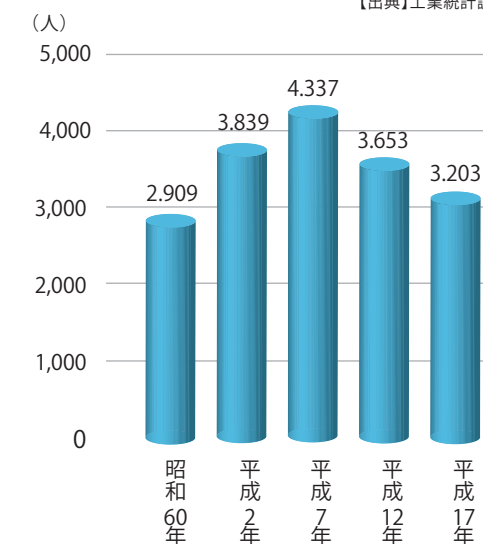
工業事業所数

【出典】工業統計調査



工業従業者数

【出典】工業統計調査



製造品出荷額等

【出典】工業統計調査

